

大学の目的 (学則 第3条)	学部(学科)の教育研究上の目的 (学部規則等から抜粋)
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のあ る人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調 和的発展に寄与することを目的とする。</p>	<p>本学部は、芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然 や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的 に行動する意欲的な人材の育成を目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【卒業認定・学位授与方針】 芸術文化学部は、芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成を目的とする。 本学部では、この目的に基づいて、芸術文化の「つくり手」(創造的活動を通して社会に豊かさを供給できる人材)、「つかい手」(既存のもの、こと、空間を使いこなせる人材)、「つなぎ手」(様々な要素をつなげて、新たな価値を提案できる人材)として、次世代社会の調和的発展に意欲的に貢献しようとする使命感と創造力を身に付け、以下に示す学修成果を上げた者に学士(芸術文化学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 芸術文化学部では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つの能力を学修するため、教養教育科目と専門教育科目を体系的に編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・自然・社会・文化・人間について幅広く学ばせるため、教養教育科目を実施する。 ・芸術文化に関する融合教育を実施するため、専門教育科目は、芸術文化における特定の領域を問わず必要な知識・技術を学ぶ科目と特定領域に特化した高度な専門的知識・技術を学ぶ科目から構成される。</p> <p>・学生が主体的・能動的に学ぶことができるよう、アクティブ・ラーニングやPBL(問題解決型学習)、地域と連携した実践教育等を実施する。</p> <p>・初年次教育として、教養教育科目とともに、最低限必要な知識の修得と専門分野における学修への動機付けを目的とし、専門教育科目の中に導入科目を設ける。</p> <p>・2年次から3年次にかけて、適切な専門教育科目を学修できるよう指導教員が助言を行う。</p> <p>・4年次には指導教員の指導の下、更に深い専門分野についての科目を実施するとともに、卒業研究・制作指導を実施する。</p>	<p>【入学者受入れ方針】 芸術文化に関心があり、美術、工芸、デザイン、建築、キュレーション、あるいは従来の領域にこだわらない表現活動に対する学修意欲を持ち、社会の調和的発展に貢献しようとする高い志を持つ者を求める。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般選抜(前期日程) 大学入学共通テストでは高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、個別学力検査では「実技検査(鉛筆デッサン)」又は「小論文」を課す。「実技検査(鉛筆デッサン)」では観察力、構成力及び基礎描写力を評価し、「小論文」では論理的思考力、文章理解・表現力及び問題発見力を評価する。</p> <p>一般選抜(後期日程) 大学入学共通テストでは高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、個別学力検査では「実技検査(鉛筆デッサン)」又は「小論文」を課す。「実技検査(鉛筆デッサン)」では観察力、構成力及び基礎描写力を評価し、「小論文」では論理的思考力、文章理解・表現力、問題発見力及び解決のための提案力を評価する。</p> <p>特別選抜(学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜) 「実技検査(鉛筆デッサン)」面接又は「小論文」面接を課す。「実技検査(鉛筆デッサン)」では観察力及び基礎描写力を評価し、「小論文」では論理的思考力及び文章理解・表現力を評価する。「面接」では勉学に対する意欲及びコミュニケーション能力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験では、日本語力、論理的思考力及び基礎学力を評価する。 本学部が実施する検査等では、「面接」「実技(鉛筆デッサン)」又は「面接」を課す。「面接」では学修意欲、日本語能力及び基礎的な英語能力を評価し、「実技(鉛筆デッサン)」では観察力、構成力及び基礎描写力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 高等学校等で履修する教科・科目について、教科書で学習する基礎的な学力を身に付けておくこと。また、デッサンによる表現、構成、観察の基礎、あるいは文章の読解と論理的思考・表現について学習しておくこと。さらに各種芸術の創作や鑑賞を通して、基礎的な造形力や豊かな感性を育てることが望ましい。</p>
【学修成果の到達目標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>【学修成果】 自然・社会・文化・人間について幅広い知識を持ち、芸術文化を社会に活かす能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目及び専門教育科目のうち、芸術文化を理解するにあたって必要な知識・技術を学修する科目の修得</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目において、自然・社会・文化・人間について幅広く学修する。 専門教育科目において、全領域に必要な知識や技術を学修する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目をバランスよく履修するとともに、専門教育科目を履修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験、レポート、作品等の授業成果物等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自然・社会・文化・人間について幅広い関心を持っていること。 高等学校卒業レベルの基礎的学力・知識を有していること。</p>
<p>【学修成果】 美術、工芸、デザイン、建築、キュレーション、あるいは従来の領域にこだわらない表現活動に関わる専門的知識・技術を持ち、芸術文化の発展に寄与できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 芸術文化の専門的知識・技術に関わる科目の修得</p>	<p>【学修内容】 専門教育科目において、より専門的な知識・技術について学修する。 より専門的な職業人としての能力を発揮するために、「建築士試験受験資格」「学芸員資格」等を取得できるカリキュラムやインターンシップなど各種キャリア教育を学修できる。 より高度な専門性を目指す学生は、大学院教育と接続する高度な教育、学修指導を受けられる。</p> <p>【学修方法】 専門教育科目とともに、インターンシップ等各種キャリア教育を履修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験、レポート、作品等の授業成果物等により到達度を客観的に評価する。 卒業論文・制作は、審査によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 美術、工芸、デザイン、建築、キュレーション、あるいは従来の領域にこだわらない表現活動に対する高い関心を持っていること。 高等学校卒業レベルの基礎的学力・知識を有していること。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>問題発見・解決力</p> <p>【学修成果】 芸術文化に関わる知識・技術・感性に基づき創造的思考力を発揮し、自発的に問題を発見・分析して心豊かな社会を実現するためのものやことを創り出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 芸術文化に関する課題発見力, 調査分析力(クリティカル・シンキング), 発想力, 企画提案力</p>	<p>【学修内容】 創造的思考力を発揮して、自発的に問題を発見し、調査分析、企画の発想・提案のプロセスを実践的に学ぶ。</p> <p>【学修方法】 授業の中で行われるアクティブ・ラーニングやPBL(問題解決型学習)を通して学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, レポート, 作品等の授業成果物等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 身の回りの問題について、日常から幅広く関心を持っていること。</p>
<p>社会貢献力</p> <p>【学修成果】 社会の一員として自らの役割を認識し、倫理観を持って自発的に行動するとともに、地域社会の活性化や問題解決に芸術文化を活かして貢献できる能力と責任感を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 安全衛生, 研究倫理に関する理解, グループワークの実践, 長期間の研究・制作における自己管理, 地域課題解決への取り組み</p>	<p>【学修内容】 地域社会の活性化や問題解決に、芸術文化を活かして実践的に貢献する能力と責任感を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 地域と連携した実践的な科目を履修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, レポート, 作品等の授業成果物等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 社会の問題について日常から幅広く関心を持ち、問題解決に貢献しようという意欲を有していること。</p>
<p>コミュニケーション能力</p> <p>【学修成果】 他者の考えを理解し、自らも情報発信する能力を身に付けている。また適切な表現手段や言語を使い、多様な人々と意思疎通し協働する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 プレゼンテーション能力, 視覚的表現能力, 情報リテラシー, ディスカッション能力, ICTを含む情報発信能力</p>	<p>【学修内容】 地域社会や国際社会において芸術文化を活かし、様々な能力・個性・意見を持つ他者との関わりの中で、実践的に貢献する態度や能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 授業の中で行われるグループワークやプレゼンテーション, ディスカッション等を通して学ぶ。 外国語の専門教育科目の履修や学術交流協定を結ぶ海外の大学等への留学を通して、国際的な視点から芸術文化を学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験, レポート, 作品等の授業成果物等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 多様な人々と意思疎通し、協働する態度を有していること。</p>